

令和6年度 牛久市社会福祉協議会 事業報告書

実施事業名	実施内容	実績成果等
I.その人らしい生き方を支援する。		
1. 人が出会い、ふれあえる場の提供 家族や地域の絆を深め、お互いが理解し合い、支え合える場を作り、かけがえのない人の輪を広げる		
(1) 家族や地域をつなげる環境の整備		
①介護者リフレッシュ事業	○介護者の集い ・12/18 20名 かすみがうら市歴史博物館・水族館	・小旅行を通して、参加者同士が楽しく交流することができた。
②介護サロンぬくもり	○介護サロンぬくもりの協働実施（月1回） ・4/11、5/10、6/10、7/10、8/13、9/10、10/10、11/11、12/10、1/10、2/10、3/10 ・参加者延べ115名 ・介護の悩みの共有・介護相談等	・参加者同士の交流を通して、リフレッシュにつながった。
2. 自分自身の表現する場と社会貢献につなげる場の提供 その人らしい生きがいがづくりを支援し、地域において個々の力が発揮できるきっかけをつくる		
(1) 生きがいがづくりの支援		
①盛人の集い	○盛人の集いの開催 ・12/7 市中央生涯学習センター 中講座室 ・参加者 38名、対象者 950名 ・講演 盛人のためのマナー&ライフプランニング ・講師 ファイナンシャルプランナー 辻 章嗣氏	・今後のライフプランが再認識できた、また今後の人生の道標になった等の声が多く聞かれた。
②高齢者いきがい活動	○太極拳教室 ・第1・2・3金曜日（全30回） 54名 ○フォークダンス教室 ・第1・2・3木曜日（全30回） 22名 ○シニア向け料理教室 ・9月～1月（全5回） 18名	・定期的に体を動かすことにより、参加者の生きがいと健康増進につなげることができた。
(2) 自分の力を地域に活かすきっかけづくり		
①地区社協リーダー研修	○地区社協情報交換会 ・12/13 市保健センター 研修室 ・参加者 地区社協リーダー等 58名 ・グループごとに分かれて情報交換	・活動分野ごとに分かれて情報交換を行い、活動紹介や日頃活動する中で抱えている課題や疑問など、積極的に意見交換することができた。
②一家にひとり地域ヘルパー養成研修	○地域ヘルパー養成研修の実施 ・開講期間 11/13～12/24 のうちの6日間 地域医療連携センター ・修了者 3名	・カリキュラムに施設見学実習を加え、6日間の研修を実施し、参加者からは講義内容等好評を得た。

実施事業名	実施内容	実績成果等
Ⅱ.地域住民の生活課題を解決する。		
1. 総合相談・総合支援の充実		
各関係機関・団体等との連携強化を図り、住民の生活課題を早期発見・解決に結びつける仕組みを構築する		
(1) 総合相談窓口の整備と各種相談機関との連携		
①総合相談「あんしん ホットライン」の運営 等	○専用フリーダイヤル ・常時開設 相談件数 219 件 ○専門相談の設置 相談件数 179 件 【心配ごと相談】第 1～4 週金曜日 ・主な相談内容は財産管理、相続等 【高齢者に関する相談】随時 ・家族介護や認知症についての相談	・市民の身近な相談窓口として、法律に関することや近所とのトラブルなど、様々な相談が寄せられており、心配ごと相談や必要に応じて専門機関等へつなぐことができた。
2. 福祉サービス利用支援の充実		
住民の立場に立った福祉サービス利用の援助や、日常生活における課題に対する支援を行う		
(1) 要援護高齢者への支援の充実		
①地域包括支援センター事業	○総合相談支援業務・権利擁護業務 ・新規相談件数 898 件 （うち高齢者あんしん電話 93 件） ・延べ対応件数 11,920 件 ・グループホーム運営推進会議 20 回 ※一部書面会議実施 ○包括的・継続的ケアマネジメント業務 ・介護支援専門員連絡協議会開催 4 回 会員数 188 名 ・訪問看護事業所情報交換会 6 回 ・合同勉強会（集合型） 28 名 ・交流会 7 名 ○介護予防ケアマネジメント業務 ・指定介護予防支援事業 実施件数 3,027 件 介護予防支援収入 15,188,395 円 ・介護予防・日常生活支援総合事業 実施件数 2,710 件 ケアマネジメント費収入 13,584,805 円 ○訪問調査事業 認定調査件数 93 件 認定調査収入 358,050 円	・延べ対応件数は前年度と比較し、1,678 件増加。 多機関と連携し、継続的な支援が必要なケースが複数あった。対象者宅への訪問等アウトリーチでの支援を中心に、関係者と情報共有しながら必要な支援につなげられた。
②地域ケア個別会議事業	・開催回数 4 回（6・9・12・3 月開催） ・検討事例数 8 事例	・マネジメントの実施件数については、令和 5 年度比、指定介護予防支援事業 220 件の増、介護予防・日常生活支援総合事業 26 件の減。近隣居宅介護支援事業所の協力を得ながらマネジメントを実施した。 ・多職種が専門的視点から個別のケースを検討することで、自立支援、重度化防止のための介護支援専門員のケアマネジメント支援を行うとともに、地域課題についても話し合った。

実施事業名	実施内容	実績成果等
③認知症初期集中支援事業	・対応件数 2 件 ・チーム員会議 延べ 2 回 ・訪問回数 延べ 6 回 「未受診の認知症が疑われる高齢者への支援」 「未受診の認知症状が顕著な高齢者への支援」	・認知症の診断・受療に繋がり、家族の協力のもと、定期的な受診や服薬ができるようになった。介護保険申請やサービス利用に向けて支援を行った。
④認知症ケア向上推進事業	○相談対応件数 99 件 ○認知症サポーター養成講座 11 回 ○認知症サポーターステップアップフォロー研修 2 回 ○認知症キャラバンメイト研修会 1 回 ○認知症周知・啓発活動 ・中央図書館にて認知症パネル展開催・認知症ケアパス配布 ・市民向け映画上映会 78 名 ・認知症ケアパス改訂 ○ぐうたオレンジカフェ 6 回 ○多職種連携研修会 18 名	・認知症サポーターステップアップ修了者及び地域の協力を得て隔月でオレンジカフェを開催し、閉じこもり予防や他者交流の機会を提供することが出来た。また、パネル展や上映会の実施、他職種向けに事業説明を行い、より認知症に対して正しい理解と住みやすい街づくりを目指した活動ができた。
⑤見守り台帳整備事業	登録人数 67 行政区（準行政区含） 3,612 名（65 歳以上高齢者の 14.1%）うち、高齢者世帯数 974 世帯、独居高齢者世帯数 1489 名	・要援護対象者の相談時に基本情報や緊急連絡先の情報を支援に活かすことができた。
(2) 障がい者への支援の充実		
①障害者相談支援事業	●一般相談 ○利用者数 - 障害児 51 名 - 障害者 229 名 ○相談件数 4,647 件（児 269 件・者 4,378 件） - 身体障害 438 件（児 16 件・者 422 件） - 重症心身障害 126 件（児 27 件・者 99 件） - 知的障害 686 件（児 83 件・者 603 件） - 精神障害 2,571 件（児 12 件・者 2,559 件） - 発達障害 599 件（児 121 件・者 478 件） - 高次脳機能障害 110 件（児 0 件・者 110 件） - 難病 62 件（児 0 件・者 62 件） - その他 55 件（児 10 件・者 45 件） ○支援方法 - 訪問相談 456 件 - 来所相談 167 件 - 同行 86 件 - 電話相談 2,938 件 - 電子メール・FAX 25 件 - 個別支援会議 53 件 - 関係機関 915 件	・相談件数は令和 5 年度の 3,975 件から約 17%増えた。昨年度に比べ、特に難病や発達障害、高次脳機能障害の方からの相談が多かった。 ・相談方法としては電話相談が最も多く、精神障害や発達障害のある方からの不安等の訴えが最も多かった。傾聴や助言を行うことで日々の生活の安定につなげることができた。 ・引きこもりや家族全体に支援が必要な世帯が多く、関係機関と連携しながら継続した支援を行うことができた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	その他 7 件 ・市受託金収入 29,595,811 円 ●特定指定相談 ○利用実績 契約件数 505 件 (児 217 件・者 288 件) 身体障害 55 件 (児 11 件・者 44 件) 重症心身障害 20 件 (児 6 件・者 14 件) 知的障害 211 件 (児 92 件・者 119 件) 精神障害 80 件 (児 1 件・者 79 件) 発達障害 125 件 (児 107 件・者 18 件) 高次脳機能障害 9 件 (児 0 件・者 9 件) 難病等 5 件 (児 0 件・者 5 件) ・計画案作成件数 501 件 ・モニタリング件数 568 件 ・自立支援費収入 20,070,485 円	・計画相談新規契約件数は、39 件 (児 22 件・者 17 件) であった。 ・令和 6 年度途中で終結となった件数は、25 件 (児 13 件・者 12 件) であった。終結になった理由としては、本人の死亡や転出、サービスを利用しなくなった等である。 ・市内に新規の相談支援事業所も増えたものの、特定相談支援事業所に比べて障害児相談支援事業所の数が少ないため、児童の依頼が多かった。
(3) 社会的援護を必要とする人の権利擁護		
①福祉サービス利用 援助事業	○相談件数 951 件 認知症高齢者 218 件 知的障害者 171 件 精神障害者 468 件 その他 94 件 ○契約件数 25 件 認知症高齢者 8 件 知的障害者 5 件 精神障害者 9 件 その他 3 件 ○新規契約件数 3 件 ○解約件数 7 件 ○生活支援員 9 名 ○広報啓発活動 市社協広報紙掲載 コミュニティ FM-UU で周知 ○支援員活動フォローアップ業務 フォローアップ研修 7/19 (4 名) ○中核機関との連携 ・地域連携協議会への参加 (5/28 10/16) ○推進委員会 (6/18 11/26)	・精神障がい、知的障がいのある方の利用件数が増えたことで、より細やかな支援が必要となり、関係機関と密に連携をとることができた。 ・金銭管理を行ううえで、収支バランスを本人と相談し、生活保護受給への支援や、年金受給の手続き支援を行った。 ・中核機関の体制整備によって、他機関と顔の見える関係づくりができ、利用相談がスムーズになった。 ・推進委員会において、個別ケースについて問題を提起し、専門的な意見をもらうことで、より良い支援につなげることができた。
②法人後見事業	○法人後見業務 (後見 3 保佐 1 補助 0) ○法人後見監督業務 1 件 (市民後見人) ○推進委員会 (6/18 11/26)	
③成年後見制度利用	○地域連携ネットワークの推進	・牛久市成年後見地域連携協議

実施事業名	実施内容	実績成果等
促進に伴う中核機関 委託事業	・牛久市成年後見地域連携協議会 委員委嘱 17 名 ・牛久市成年後見地域連携協議会 5/28（16 名） 10/16（15 名） ・成年後見利用促進勉強会 11/19（16 名） ○広報機能 ・パンフレットの配布 事業所 70 ヶ所 金融機関 17 ヶ所 ・市民向け成年後見研修会（講師：職員） 5/8(8 名) 5/15(9 名) 10/9(6 名) 10/23(3 名) ・市民向け成年後見研修会（講師：専門職） 8/6(36 名) 2/12(33 名) ・任意後見制度研修会 7/4（67 名） 12/10（50 名） ・成年後見利用促進研修会 6/18（32 名） ・広報用ポケットティッシュ作成と配布 ○相談機能 ・相談件数 379 件 ・チーム数 24 チーム ・一次相談事業所連絡会 6/26 11/27 ・成年後見利用検討会議 11/16(2 ケース) 1/17(1 ケース) 3/12(2 ケース) ○成年後見制度利用促進機能 ・成年後見人等候補者調整会議 委員委嘱 7 名 調整会議 6/6(1 件) 10/7(1 件) 3/6(1 件) ・市民後見人養成研修修了者向けのフォローアップ研修 9/10（9 名） ○後見人支援機能 ・成年後見選任後の相談 11 件 ・親族後見人向け後見活動勉強会 12/17（9 名） ・親族後見人向け情報交換会 1/21（8 名） ○不正防止効果の取り組みに向けた検討 ・各事業に不正防止効果の視点を反映できるよう、担当課と打ち合わせを行った。	会において、連携を意識した広報啓発活動について審議することができた。 ・成年後見利用促進のため、さまざまな研修会の実施と新たな広報媒体としてポケットティッシュを作成した。 ・今年度から、直接的な相談窓口として成年後見制度に関する相談対応を行い、相談者に対して細やかな対応をすることができた。 ・成年後見人等候補者調整会議を開催し、本人の課題を解決するために適切な成年後見人等候補者を調整することができた。 ・後見人支援機能の新たな取り組みとして、情報交換会を実施することができた。
(4) 課題解決のための情報提供及び支援		
①生活福祉資金貸付 事業	○相談件数 103 件 ・生活費の不足 71 件 ・医療費の不足 3 件 ・転居費用 4 件 ・債務の返済 8 件 ・教育支援資金 5 件	・新型コロナウイルス特例貸付の償還に関する相談及び償還猶予申請の対応を行った。特例貸付利用者からの相談に応じてフォローアップを行った。

実施事業名	実施内容	実績成果等
②特例貸付フォローアップ支援事業	・リバースモーゲージ 2 件	
	・その他 10 件	
	○相談件数（重複あり） 49 件	
	・償還免除者 10 件	
	・免除に至らない償還困難な借受人 32 件	
	・償還猶予 5 件	
	・自立相談支援機関へのつなぎ 0 件	
	・少額返済相談で県社協へのつなぎ 1 件	
③小口資金貸付事業	・償還猶予申請 1 件	
	○相談件数 0 件	
	・貸付件数 0 件	
④歳末たすけ合い配分事業	・償還件数 0 件	
	○在宅援護対象見舞金配布事業	
	・対象：151 世帯×15,000 円	
	○一人暮らし高齢者ふれあい訪問事業	
⑤自立相談支援事業	・75 歳以上一人暮らし高齢者把握 2,003 世帯	・訪問活動をとおしてふれあう機会をもち、地域における平常時及び災害時等の見守り体制づくりにつながった。 ・就労準備支援カフェを毎週開催し、働くことに悩みを抱えている方の就労相談や、家族以外の人との関わりが少ない方等の交流の場とした。 ・新たに向台小地区カフェを開設した。牛久小地区カフェ、向台小地区カフェ及びつきいちカフェを毎月 1 回ずつ開催し、働くことに悩みを抱え、家族以外の人との関りが少ない方の居場所づくりのひとつとして実施した。 ・家計改善支援事業では 4 名の対象者に、月々の生活収支や市税滞納状況など確認し、将来的に自己管理できるよう支援を行った。
	・配布数 1,918 世帯	
	○生活困窮者の新規相談件数 214 件	
	・貸付相談 110 件	
	・住居確保給付金 14 件	
	・特例貸付償還について 11 件	
	・就労相談 8 件	
	・滞納、債務相談 4 件	
	・ひきこもり 2 件	
	・就労準備支援カフェ参加、問合せ 12 件	
	・病気相談 2 件	
	・食べるものがない 27 件	
	・DV、虐待 1 件	
	・その他 23 件	
	○プランに基づく支援 27 件	
	・生活困窮者 22 件	
	・被保護者 5 件	
	○他制度利用や支援へのつなぎ 54 件	
	・生活福祉資金特例貸付償還猶予申請 1 件	
	・生活保護の相談へのつなぎ 6 件	
	・食糧支援 25 件	
	・生活保護受給者等就労自立促進事業 2 件	
	・一般就労 13 件	
	・福祉的就労 5 件	
	・増収者 2 件	
	○支援調整会議の実施 12 回	
	個別ケース検討、プラン策定、終結の承認	

実施事業名	実施内容	実績成果等
	○関係機関との連携 ・市役所 80 件 ・ハローワーク 54 件 ・障害者相談支援事業所 16 件 ・就労継続支援事業所 6 件 ・地域包括支援センター 12 件 ・法テラス 6 件 ○フードバンクと連携した食糧支援 24 件 (米 93.4 kg、食品 274.6 kg) 市民からきずな BOX への食品提供 (米 387.0 kg、食品 861.2 kg) ○関係機関研修会の実施 ・5/30 16 名 中央生涯学習センター 生活困窮者自立相談支援事業の実施状況と事前アンケートの結果説明 事前アンケートについて模擬支援会議 講評：松原真佑氏（茨城県福祉部福祉人材指導課） ○就労準備支援事業 ・就労準備支援カフェの実施 51 回 参加人数延べ 226 名 就労相談 18 名 ・牛久小地区カフェの実施 11 回 参加人数延べ 40 名 ・向台小地区カフェの実施 11 回 参加人数延べ 21 名 ○被保護者就労準備支援事業 ・つきいちカフェの実施 12 回 参加人数延べ 102 名 ○家計改善支援事業 ・対象者 4 名 (新規プラン作成 6 件、支援回数 55 回) ○被保護者家計改善支援事業 ・対象者 1 名 (新規プラン作成 2 件、支援回数 17 回)	
3. ニーズにあったサービスの開発と実施 生活課題の多様化・個別化に対し、関係機関等との連携を図りながら、質の高い福祉サービスを提供するとともに、新しいサービスを開発し実施する		
(1) ニーズに即した介護保険事業の展開		
①居宅介護支援事業	○利用実績 開所日数 294 日 契約件数 211 名 ・介護保険	・要介護認定の申請者数が増えていることから、一般相談や包括支援センターからの新規相談が増加している。 介護支援専門員が担当する中に

実施事業名	実施内容	実績成果等	
②通所介護事業	実利用者数 166 名	は困難ケースもあるため、件数だけでなく、担当ケースの状況や経過等も考慮し調整しながら新規受入を行っている。	
	延利用者数 1,463 名		
	介護保険収入 25,703,711 円		
	・介護予防支援		・認定調査は、自事業所以外(市内・他市町村)の依頼も増えており、令和 6 年度の調査件数も 60 件→103 件と増加した。
	実利用者数 45 名		
	延利用者数 511 名		
	介護予防支援収入 2,252,691 円		
	・認定調査		
	認定調査件数 (牛久市) 103 件 (他市町村) 30 件		
	認定調査収入 (牛久市) 396,550 円 (他市町村) 151,835 円		
	○利用実績		・新型コロナウイルスの影響により、令和 6 年 5.7.8.12 月、令和 7 年 1 月に利用者様及び職員に陽性者が発生し、感染への不安から一時的に利用者様の利用控えが起こり、年間利用者数が令和 5 年 185 名少ない、7,685 名であった。平均利用者数も 25.1 名で、令和 5 年度と比較して、0.3 名減となった。
	開所日数 308 日		
	契約者数 108 名		
	実利用者数 108 名		
	延利用者数 7,685 名		
	一日平均利用者数 25.1 名		
	介護保険収入 72,646,084 円		
	平均単価 9,452 円 (令和 5 年度比 42 円増)		
	○行事 (季節行事)		
	・お花見散策 (全 7 回) 計 60 名参加		
	・夏祭り (全 3 回) 計 73 名参加		
	・ぶどう狩り (牛久シャトー) 計 3 名参加		
	・うしく菊花公園散策 (全 7 回) 計 36 名参加		
	・新年会 (全 3 回) 計 75 名参加		
	○外出レクリエーション		
	・苺狩り 計 7 名参加		
	・つくばローズガーデン 計 5 名参加		
	・水郷潮来あやめ園 計 5 名参加		
	・那珂湊おさかな市場 計 4 名参加		
	・茨城空港 計 3 名参加		
	・カラオケ 計 3 名参加		
	・つくばイオン (買物&猫カフェ) 計 2 名参加		
・霞ヶ浦観光遊覧船 計 7 名参加			
・果物狩り (梨・ぶどう) 計 6 名参加			
・りんご狩り 計 5 名参加			
・いばらきフラワーパーク 計 2 名参加			
・雪印メグミルク阿見工場見学 計 4 名参加			
○創作活動及び畑、苗植え作業		・創作活動において、年間計画を立て、月毎に季節にちなんだテーマのプログラムを準備することで、利用者様の意欲向上や交流促	

実施事業名	実施内容	実績成果等
③訪問介護事業	4月 ハーバリウム作り 他3種類 花植え、畑作業	進につながった。 また、ボランティアの方から創作活動の支援を受けることができる等、地域の方との交流にもつながっている。 ・カラオケや麻雀等、利用者様のニーズに合わせて、機会を設けることで、趣味サークルのような雰囲気、各利用者様の充実感や交流促進につながっている。 また、お試し体験の利用者様からも好評をいただき、新規契約の獲得にもつながった。 ・理学療法士の指導による機能訓練を実施することで、利用者様自身が意欲的に運動を行い、体力や筋力の維持向上につながった。 ・ボランティアセンターとの連携により、個人ボランティアの受入れ人数が増えており、営業日毎にボランティアの協力を得ることができている。 また、夏祭りや新年会においても、ボランティアの協力をいただくことができた。
	5月 季節の絵手紙作り 他3種類	
	6月 ステンシルエコバッグ 他3種類 サツマイモ苗植え	
	7月 手作り風鈴 他3種類	
	8月 ビーズアクセサリ作り 他3種類	
	9月 貝殻のレジンキーホルダー ビーズアクセサリ 他2種類	
	10月 プラバンキーホルダー 他3種類	
	11月 ステンドグラス風写真立て プラバンキーホルダー 他2種類	
	12月 クリスマスリース・松ぼっくりツリー 他2種類	
	1月 椿のチャーム 他3種類	
	2月 三角パックのお雛様 他3種類	
	3月 ふわふわモールドール 他3種類	
	○おやつ作りレクリエーション（全12回）	・令和6年度から介護福祉士の資格保持者が増えたことで事業所の加算要件が変わり、介護報酬区分を上げて算定できるようになった。しかし令和6年度の介護報酬改定で訪問介護は単位数の変動がなかったため、延利用者数は増えつつも(1,171名→1,184名)介護保険収入は減少(5,514,246円→5,295,100円)。 ・自立支援事業は、市内での実施事業所が少なく、通院同行も含め、利用回数が増えている(延利用者数：1,102人→1,725人)。
	○ボランティア受け入れ	
	個人ボランティア数 11名	
	夏祭りボランティア 17名	
	シルバーリハビリ体操 1団体	
	外出レクリエーションボランティア 4名	
	新年会ボランティア 3団体 (牛久かつば太鼓・ギター演奏・おかめひょっとこ踊り)	
	○利用実績	
	開所日数 244日	
	・介護保険	
	契約者数 18名	
	実利用者数 13名	
	延利用者数 1,184名	
	一日平均利用者数 4.9名	
	介護保険収入 5,295,100円	
	・障害者総合支援	
	契約者数 37名	
	実利用者数 26名	
	延利用者数 1,725名	
	一日平均利用者数 7.1名	
	総合支援収入 8,815,983円	
	・移動支援	
	契約者数 13名	

実施事業名	実施内容	実績成果等
	実利用者数 10 名 延利用者数 327 名 一日平均利用者数 1.3 名 移動支援収入 1,288,240 円	・エールからの依頼が多く入ることもあり、障害者総合支援の利用者数は増減しながらも一定数を維持している。
(2) ニーズに即した障害福祉サービスの展開		
①知的障害者デイサービス事業	○利用実績 開所日数 245 日 登録者数 67 名 実利用者数 66 名 延利用者数 12,485 名 一日平均利用者数 51.0 名 自立支援費収入 137,830,460 円 利用者負担金収入 2,686,709 円 ○就労継続支援B型事業 ・請負作業 収入 2,699,122 円 (株)マーナ (株)シバコーポレーション (株)イムロ茨城工場 ブックオク(株)牛久店 茨城トヨタ自動車(株) 自動販売機管理 市役所依頼の作業 通所介護浴室清掃 居宅介護支援・訪問介護公用車洗車 ・自主製品 収入 10,580,766 円 パン・クッキー製造 名刺印刷 ・外出活動 国営ひたち海浜公園 (5/9.16.24,6/6) カラオケ (6/20.27) 大洗水族館 (10/3.10.17) アンデルセン公園 (11/8) キューピー五霞工場 (12/2.13) ボウリング (1/17.23.31) 航空科学博物館 (2/5.20.28) いちご狩り (3/18.27) ・お花見 (4/2～4)	・契約者数は、4 月に新規利用者様が 3 名増えて 67 名でスタートしたが、年度途中で 4 名が施設入所された。1 日の平均利用者数は令和 5 年度より約 1 名増の 51.0 名だった。自立支援費収入は約 750 万円の増収となった。 ・請負作業においては前年度から引き続き左記の事業所の請負作業に従事した。令和 5 年度より約 30 万円の増収となったが、さらなる工賃向上を目指し、利用者様一人ひとりの興味や適性に合った仕事を開拓していく必要がある。 ・自主製品事業（パン・焼菓子製造）では、新たなイベントや地域のサロン等からお声かけを頂き、多くの場所でパン・クッキー等を販売することができた。また、下根中学校の生徒が美術の時間にデザインしたシールを商品のパッケージに使用したり、地産の材料を使った限定パンをイベントで販売するなど、地域とのコラボレーションも生まれ、多くの方にわくわくの商品を知っていただく機会となった。自主製品全体では令和 5 年度より約 8 万円の増収となった。 ・利用者様一人あたりの平均工賃月額、令和 5 年度より 4,585 円増の 21,055 円となった。 ・外出活動は、利用者様のご希望を踏まえて少人数のグループで各所に出かけ、日々のリフレッシュ

実施事業名	実施内容	実績成果等
	○自立訓練（生活訓練）事業 ・生活訓練（集団）（毎日） ・作業訓練（毎日） ・買物（フードストッカー 5/14） （ダイソー 6/12） （カスミ 7/16） （ダイソー 8/22） （カスミ 10/22） （セブンイレブン 11/20） （フードストッカー 12/10） （セブンイレブン 1/22） ・調理訓練（お好み焼き 5/16） （そうめん 7/17） （ハンバーグ 10/23） （たこ焼き 12/11） ・公共交通機関利用訓練（牛久市役所 8/28） ・移動・外食訓練（カフェピアーズ 9/27） （日高屋取手店 10/2） （土浦駅ラーメン店 2/25） （カフェピアーズ 3/19） ・外出活動（小貝川ふれあい公園 3/31） ○生活介護事業 ・生活支援班 ・創作班 ・PT（理学療法士）・OT（作業療法士）指導 ・音楽療法（毎月第1月曜日、第3火曜日） ・生産活動 ・自動販売機清掃 ・お楽しみ会（自動販売機で購入 4/26） （ハロウィンパーティー10/31） （カフェピアーズ 1/30.31） ・散策（霞ヶ浦総合公園 11/21～28） ・季節のレク（かき氷 8/26～30） （クリスマスリース作り 12月） （お花見弁当 3/25～28） ・調理レク（カップケーキ 6/24～28） （じゃがいもピザ 9/24～30） ・市民文化祭見学（10/9.10.11） ・ナイスハートフェスティバル見学 (12/5.6.7.9) ・外出	ユと作業意欲の向上を図った。 ・特別支援学校高等部を卒業した3名の方が入り、1年間休止していた自立訓練事業が再開した。 ・生活能力向上のため、掃除や洗濯、調理などの日常生活訓練を実施したり、買い物の仕方や会計、公共交通機関の利用、外出先でのマナーを身に付けるなどの社会生活訓練を行った。 ・また、将来の就労を見据え、体力づくりや軽作業などの作業訓練に加え、パン納品や販売の機会を設け、挨拶やコミュニケーションを実践的に行う訓練を行った。 ・さらに、身体機能の維持、向上のため、理学療法士による指導も行った。 ・日々の活動では、グループ編成を行ない、午前と午後で活動を分け、利用者様のペースに合わせた活動に取り組むことを重視した。それにより、利用者様一人ひとりの活動量を増やすことができ、体力や身体機能の維持向上を図ることができた。 ・また、季節を感じることでできる活動を増やし、夏はかき氷作り、秋は紅葉狩り、冬はクリスマスリース作り、春は花見を実施した。クリスマスリース作りはご家族にも好評で、ご自宅に飾っていただけた。 ・外出活動では、昨年同様にアンケートを実施し、利用者様の希望の外出先に少人数のグループで出かけ、ゆっくり楽しむことができた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
②身体障害者デイサービス事業	大洗水族館 (5/23.27.28.31) ネーブルパーク (5/29) グランベリー大地 (2/12.13) グリコピア千葉 (2/19.26) ○健康管理 ・身体検査 (月 1 回) ・心電図検査 (7/2～7/30 32 名実施) ・歯科検診 (10/10 19 名実施) ・健康診断 (11/29 24 名実施) ○行事 ・夏祭り (7/6、33 家族 87 名参加) ・ぶどう狩り (10/3、16 名参加) ・クリスマス会 (12/21、32 家族 80 名参加) ・茨城県障害者スポーツ大会 (9/14、11 名参加) ○相談支援 ・第 1 回保護者懇談会 (6/14,21 実施、22 名) ・第 2 回保護者懇談会 (2/21,14 名) ・第 1 回保護者面談 (9/23～10/18) ・第 2 回保護者面談 (2/24～3/21) ○日中一時支援事業 平日利用延人数 842 名 土曜日利用延人数 311 名 運営費補助金収入 3,582,890 円	・月に 2 回音楽療法士に来ていた だき、音楽に触れる機会を設け た。利用者様の好みや特性を考慮 したプログラムを行なっていた だき、利用者様も毎回楽しみにさ れている。また、理学療法士に加 えて、作業療法士による指導も行 った。 ・新型コロナウイルス感染対応 については、5 類感染症への移行 後も、毎日の検温、消毒の他、感 染者が出た際には接触者への抗 原検査を行い、感染拡大防止に努 めてきたが、3 月には職員 3 人、 利用者様 9 人の集団発生があり、 保健所に届出を行った。軽症者が 多かったが、感染力は強いため、 引き続き感染予防に努めていく。 ・今年度から自立訓練事業が増 え、行事を楽しみながら新しいご 家族同士の交流の機会を作ること ができた。また、ボランティア の協力も得ることができた。 ・第 1 回保護者懇談会は、就労 継続支援事業と生活介護事業に 分けて 2 日間に渡り実施した。 第 2 回保護者懇談会は、新型コ ロナウイルス感染症が落ち着い てきたこともあり、合同で開催 した。 ・平均利用者数は、平日が 3.4 名、 土曜日が 7.9 名であり、特に土曜 日の利用が増えた。ご家族の高齢 化などにより、ニーズはさらに増 えていくことが予想され、今後は 送迎等も含めた対応についても 検討していく必要があると思わ れる。
	○利用実績 開所日数 245 日 登録者数 42 名 実利用者数 39 名	・令和 6 年度は、新規登録が 2 名 いたが、亡くなられた方が 3 名、 市外へ転居された方が 1 名いた ため、1 日の平均利用者数は 13.1

実施事業名	実施内容	実績成果等
	延利用者数 3,211 名 一日平均利用者数 13.1 名 市受託金収入 38,422,314 円 ○訓練活動 ・社会生活訓練及び日常動作訓練 ・機能訓練 OT による機能訓練（月 8 回） PT による機能訓練（月 8 回） ST による言語訓練（月 1 回） ○生きがい活動 ・創作活動及び趣味教養活動（毎日） 籐細工、陶芸、絵画、書道、塗り絵、パソコン等 ・スポーツレクリエーション（週 1 回） フライングディスク、モルック、バグゴー、卓球バレー、シャッフルボード、ストラックアウト ・健康講座（年 3 回） 38 名 夏バテについて（6/26）12 名 食中毒について（9/18）14 名 食事について（1/29）14 名 ・趣味教養講座（年 3 回） 43 名 ウインドベル（7/31）12 名 ランプシェード（11/29）16 名 ハーバリウム（3/26）15 名 ・作品展への出展 ナイスハートフェスティバル 個人 21 名、共同作品 1 点 市民文化祭 15 名 小坂団地文化祭 12 名 ・作品販売 小坂団地秋祭り（9/15） こころの里秋まつり（9/21） うしく Wai ワイまつり（11/ 3） 奥野ふれあいまつり（11/23） ・スポーツ大会 ・県障害者スポーツ大会（5/12） 10 名	名となり、令和 5 年度と比較して 0.4 名増となった。 ・機能訓練においては、専門家（OT・PT・ST）の指導により、利用者様が自身の身体状態を理解し、それぞれに適した運動に取り組んでもらうことができた。また、生活支援員が個々の生活課題に合わせて、個別の訓練や音楽に合わせた少人数での体操を継続して行うことで、利用者様の意欲を維持しつつ、身体機能の維持・向上を図ることができた。 ・陶芸や籐細工等では、上肢や手指の動きを意識しながら、意欲的に取り組むことにより、食事、更衣、書字等の日常生活動作の維持・向上につなげることができた。 ・スポーツレクリエーションでは、様々な障がいのある方でも関心を持ち取り組んでいただけるようにルールを工夫しながら実施した。利用者様同士が楽しみながら、身体を動かすことができた。 ・ナイスハートフェスティバルは、日頃から意欲的に作品作りに取り組み、昨年より 7 名多い 21 名の利用者様が出展した。そのうち 1 名の利用者様が特別賞（県知事）を受賞することができた。 ・作品展への出展だけでなく、イベントでの作品販売に向けても、利用者様は意欲的に作品づくりに取り組むことができた。 ・スポーツ大会では、日頃の成果を発揮するために 3 つの大会に

実施事業名	実施内容	実績成果等
③放課後等デイサービス事業	・地域障害者スポーツ大会（9/28） 6名 ・障害者・高齢者フライングディスク競技大会（10/14） 7名	参加した。そのうち 1 つの障害者・高齢者フライングディスク競技大会には初めて参加し、7名の利用者様が出場した。
	・自主的活動 外出レクリエーション いちご狩り（2回） 8名 映画鑑賞（3回） 6名 外食ラーメン（1回） 4名 外食那珂湊（2回） 8名 メグミルク工場見学（1回） 2名 つくば蘭展見学（1回） 3名 茨城県自然博物館（1回） ・屋外活動 お花見（龍ヶ崎市ふるさとふれあい公園）（4/3～8.11.12） 24名 牛久シャトーぶどう狩り（10/3.4） 15名 市民文化祭見学（10/9～11） 19名 うしく菊まつり（11/5～8） 22名 豊洲千客万来（11/21） 28名 ナイスハートふれあいフェスティバル見学（12/6） 20名 国際福祉機器展（10/2～4） 11名 TSUKUBA 福祉機器展（11/16） 9名	・外出レクリエーションでは、行き先や行程を利用者様ご自身で決めることで、日頃の活動では得られない達成感を得ることができ、活動の意欲向上にもつながった。 ・屋外活動の豊洲千客万来は、利用者様からは、テレビで見て行きたかった所に来てよかった。美味しい海鮮が食べられて嬉しいなどの声を聞くことができた。 ・ナイスハートフェスティバルの見学では、利用者様自身の日頃の創作活動の成果を確認するだけでなく、他の出展者の作品を鑑賞することで刺激を受け、さらなる創作活動の意欲につながった。見学の後に、道の駅かさまで昼食と買い物をしたことで、利用者様からは作品展だけでなく、食事も買物も楽しめた等の喜びの声を聞くことができた。
	○相談支援	・相談支援においては、相談支援事業所や居宅介護事業所等と連携を行い、サービス調整や介護保険への移行の相談、福祉用具の購入等の相談に対応し、生活課題の解決につなげた。
③放課後等デイサービス事業	○利用実績	・1日平均利用者数が令和5年度よりも0.6名増えて9.0名となった。実利用者数は変わらなかったが、継続利用者の利用日数が増加した。
	開所日数	293日
	契約者数	25名
③放課後等デイサービス事業	実利用者数	24名
	延利用者数	2,648名
	一日平均利用者数	9.0名
③放課後等デイサービス事業	障害児通所給付費収入	31,497,451円
	利用者負担金収入	1,860,198円
	日中一時支援費収入	328,590円

実施事業名	実施内容	実績成果等
	受託事業収入（公費）措置分 2,749,017 円 ○外出活動 ・カフェ・ピアーズでの昼食（7/24、12/24） ・茨城県自然博物館（7/30） ・カラオケ（8/29、3/26） ・市民文化祭見学（10/12） ・ナイスハートフェスティバル見学（12/7） ・買い物（12/26） ・女化神社へ初詣（1/6） ・お花見（3/27） ○調理活動 ・チャーハン（4/4） ・餃子（4/13） ・バーベキュー（5/11、11/9） ・お好み焼き（6/22） ・ハンバーガー（7/13） ・冷やし中華（8/24） ・カレーライス（8/27） ・肉じゃが定食（9/14） ・親子丼（11/13） ・シチュー（1/25） ・麻婆豆腐（2/22） ○その他 ・音楽療法（月2回） ・ハロウィンパーティー（10/26） ・わくわくの夏祭り、クリスマス会参加	でいた。初めて触る楽器も多く、戸惑いながらも音や感触を楽しむ様子が見られた。 ・10月に家族参加型のイベントとしてハロウィンパーティーを開催した。利用者様と一緒に準備を行い、当日は仮装やゲームをして楽しんだ。きょうだい児もゲームに参加してもらい、利用者様と一緒に楽しめるイベントにすることができた。 ・夏休みの外出活動では、茨城県自然博物館に行き、展示物を見たり触ったりして楽しみながら学ぶことができた。また、利用者様からの要望が多かったカラオケを年に1回から2回に増やしたことにより、令和5年度よりも多くの利用者様に参加してもらうことができた。マイクを持って歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたりしながら楽しんでいた。 ・調理活動では、和食、洋食、中華など様々なメニューに挑戦した。家庭では食べない料理もみんなで作ると食べることができ、保護者に報告をすると驚かれることが多かった。 ・申請者数は横ばいだが、タクシー券の利用は伸びている。 ・利用者様からは、飼育に必要な費用負担が軽減されると喜ばれた。
④福祉タクシー利用 料金助成事業	○重度障害者福祉タクシー利用料金助成	
	・人工透析 33名 ・その他 103名	
⑤補助犬飼育管理費 助成事業	○身体障害者補助犬の飼育経費を一部助成	
	・盲導犬利用者 1名	
(3) ニーズに即した児童発達支援事業・保育園事業の展開		
①こども発達支援セ ンター事業	○利用実績 ・開所日数 243日 ・登録者数 172名 ・実利用者数 162名 ・延利用者数 4,555名 ・一日平均利用者数 18.7名 ・障害児通所給付費収入 53,480,753円	・令和5年度と比較し、登録者数1名増、実利用者数6名増、1日平均利用者数2.8名増、延べ利用者数は、633名増となった。少子化が進み、市内に児童発達支援事業所が増え、他事業所を利用（または併用）する児童が増えている

実施事業名	実施内容	実績成果等
② ふれあい保育園事業	・市受託金収入 26,595,000 円 ○発達支援 ・小集団指導 延 3,842 名 (内 肢体不自由児クラス 0 名) (内 1～2 歳クラス 35 名) ・個別指導 延 1,407 名 ○家族支援 ・学習・講習 - 就学説明会、就園おはなし会 72 名 - 保護者勉強会 (全 4 回) 71 名 - 療育基礎講座 (全 3 回) 35 名 - ペアレントトレーニング (3 回/3 グループ講座) 10 名 - おしゃべり会 (全 23 回) 延 107 名 ・主な行事 - 夏まつり 181 名 (親子 61 組) - 秋の遠足 13 名 (親子 12 組) ・きょうだい児対応 延 999 名 ○相談援助 延 348 件 ○地域支援 ・新規相談 (インテーク) 74 件 ・保育所等訪問支援 (給付対象分) 74 件 (延 146 名) ・その他の訪問支援 (給付対象外) 28 件 (延 175 名) ・公開療育 35 回/15 日間、63 名参加 ・保育士研修会への協力 3 回 ・教委巡回相談への協力 16 回 ・就学時健診への協力 8 回 ・かるがも教室 36 回 ・療育相談 11 回 (延べ 15 名) ・ケース会議の開催 4 回 ・市要保護児童対策地域協議会実務者全体会議 1 回 ・市子ども子育て会議 4 回 ・市いじめ問題専門委員会 4 回 ・市教育支援委員会 4 回	が、3 歳以上児クラスの利用方法を変えたことで、登録者数の増加はほとんどないが、延べ利用者数が増加し利用がしやすくなったと思われる。 ・ペアレントトレーニングは、3 グループの開催となった。 ・夏まつりや遠足を開催し、親子でふれあったり、他の家族と交流したりする機会となった。 ・保育所等訪問支援は、令和 5 年度比 9 名増の延べ 146 名と同数であった。保護者や園からの依頼で園と園児、保護者の困り感に寄り添い、園での生活がよりスムーズに送れるよう、支援ができた。 ・公開療育が開催できた。コロナ禍以降初めての開催のため、63 名の幼稚園・保育園・認定こども園の先生の参加があった。参加した先生方と意見交換をすることができた。
	牛久ふれあい保育園 ○運営実績	・保育園マニュアルの見直し等、職員と改めて確認を行い、園児の

実施事業名	実施内容	実績成果等
	・本園 124 名（利用定員 130 名） ・分園 19 名（利用定員 20 名） ・開園日数 294 日 ○特別保育事業 年間延べ人数 ・延長保育事業 1,821 名 ・一時保育 65 名 ○委託費収入 本園 157,370,250 円 分園 47,173,310 円 <主な行事> 毎月の誕生会、交通安全指導、食育活動、夏祭り、運動会、七五三集会、秋の遠足、ハロウィン、クリスマス会、味噌作り、ならせ餅、発表会、豆まき集会、お別れ遠足、卒園式 奥野さくらふれあい保育園 ○運営実績 ・70 名（利用定員 78 名） ・開園日数 294 日 ○特別保育事業 年間延べ人数 ・延長保育事業 337 名 ・一時保育 216 名 ○委託費収入 93,046,390 円 <主な行事> 毎月の誕生会、こいのぼり集会、プール開き、七夕、遠足 ハロウィン、七五三集会、味噌づくり、クリスマス会、豆まき集会、発表会、ひな祭り、交通安全教室、卒園式 上町ふれあい保育園 ○運営実績 ・本園 128 名（利用定員 130 名） ・分園 11 名（利用定員 12 名） ・開園日数 294 日 ○特別保育事業 年間延べ人数 ・延長保育事業 3,265 名	安全に配慮し、園内・外の活動を実施することができた。新たに牛久グリーンファームでの大根抜きを体験し、食育活動にも力を注ぐことができた。 ・園庭周りの環境整備、発表会の衣装作りを通し、地域の方々との関係を築いていくことができた。 ・小学校・児童クラブ・保育園で定期的に会議を実施。情報交換を密に行い学校内の問題の共有化を図った。また、児童クラブと合同避難訓練を実施。季節の感染症流行時の対策を新たに話し合い、敏速な対応ができた。施設内にいる子どもたち全員の健康・安全に配慮した。 ・向台小学校の行事に年長組が積極的に参加。地域の方が行う昔遊びに参加するなど交流を図る他、進級への期待も高めることができた。 ・地区社協主催のお祭り、苗植え芋ほり、特養老人ホームの催事に参加し今年度も地域との交流を持つことができた。 ・食育活動を栄養士、給食職員と力を入れ、季節の食材を用いて子ども達に活発に食べることの大切さを知らせることができた。 ・2 歳児クラスが少人数なことから 3 歳児と混合クラスにし縦割り保育の良さを子どもの成長でみることもできた。 ・今年度も引き続き感染対策には気を配り、状況に応じ、安全に配慮しながら園行事等を実施。全園児対象での活動が戻り、園全体はもちろん、保護者にも活気が戻った。職員間での情報共有や共通理解を心掛け、全職員で協力しな

実施事業名	実施内容	実績成果等
	・一時保育 423 名 ○委託費収入 本園 152,663,080 円 分園 28,538,640 円 <主な行事> 毎月の誕生会、季節ごとの集会（端午の節句など、お楽しみ会（年長児）、交通安全指導、食育活動、園外保育、牛久小中学校授業体験、夏まつり、運動会、発表会、クリスマス会、おわかれ遠足、卒園式	がら意欲的に取り組むことができた。 ・地域交流として、上町行政区の夏祭りでは和太鼓を披露。また、牛久小中学校地区社会福祉協議会「サロンとまり木」へは年齢別に毎月訪問。和太鼓の演奏をリクエストされ、年度末には全園児で訪問し、利用者の皆様と交流をしながら賑やかな演奏会となった。地域交流の場を通して、人と人との繋がりの大切さを園児や保護者とも共有することができた。 ・隣接する第二幼稚園が閉園し、保幼小交流も牛久小中学校との交流のみとなってしまったが、例年通りの授業時間での交流に加え、業間休みを利用した交流を行うことで、より自然な関わりができるようになり、就学への期待を高め、交友関係の広がりをつくることができた。

Ⅲ.地域の福祉力を高める。

1. 支えあう心を養う

福祉の心を養い、地域福祉活動への関心を高める環境を整備する

(1) 子どものころから福祉の心を養う		
①牛久市社会福祉大会の開催	・2/22 中央生涯学習センター ・式典、映画「九十歳。何がめでたい」 ・参加者 約 1,200 名 ・顕彰 表彰の部 30 組(個人 28 名/団体 2 組) 感謝の部 47 組(個人 23 名/団体 24 組)	・地域福祉活動へ貢献された方々への顕彰と合わせ、映画上映を行い、大盛況であった。住民同士の助け合い活動の必要性を啓発することができた。
(2) 情報発信による地域福祉活動の活性化		
①「こんにちは！社協です」の発行	○社協広報紙の発行	・社協会員募集のお願いや各事業の紹介等、幅広く周知することができた。 ・多くの市民や関係者等に社協パンフレットを配布し、事業の紹介や理解を広められた。 ・ホームページ及び SNS を随時更新し、社協の情報を発信した。
②社協パンフレットの配布	○社協パンフレットの作成及び配布	
③ホームページによる情報発信	○ホームページの運営及び公開	
	・ホームページの活用 ・SNS の活用	

実施事業名	実施内容	実績成果等
2. 小地域福祉活動の推進 小地域福祉活動の基盤を整備し、住民主体の活動を支援する		
(1) 小地域福祉活動の基盤づくりと活動支援		
①地域福祉活動のコーディネート	○地区社協活動への主な支援・協働活動 ・牛久小学区地区社協：いやしの郷・いやしの郷カフェ、サロンとまり木の運営他 ・二小学区地区社協：地区社協ボランティア移送の実施、サロンむつわの運営他 ・おくの地区社協：おくのふれあいまつり、一人暮らし高齢者見守り訪問の実施他 ・神谷小学校区地区社協：小学生と協力したふれあい訪問、ウォーキング大会他 ・向台小学校区地区社協：地区社協ボランティア移送、新緑祭・収穫祭の出店協力他 ・岡田小学校区地区社協：1対1の見守り活動、地区社協ボランティア移送の実施他 ・中根小学校区地区社協：一人暮らし高齢者見守り訪問、親子ふれあいの旅他 ・ひたち野うしく小学校地区社協：ふれあいまつり、ひだまりカフェの実施他 ○地区社協会長会議の開催 ・4/17、8/29、1/15	・高齢者や子育て世代など、孤立・孤独になりがちな人たちが地域で交流できる居場所づくりが進められた。定期的に参加できるカフェなどの集いの場も増え、新たな仲間との出会いの機会にもなった。各地区社協の活動が円滑に進むように、役割を分担し、協力し合って支援することができた。
②地区社協活動支援助成事業	○地区社協活動支援助成金の交付 ・地域の実情に即した地区社協活動の促進を図り、地域住民による地域福祉の増進に寄与 牛久小学区地区社協、二小学区地区社協、おくの地区社協、神谷小学校区地区社協、向台小学校区地区社協、岡田小学校区地区社協、中根小学校区地区社協、ひたち野うしく小学校区地区社協 8 地区社協×50 万円	・赤い羽根共同募金の配分金を活用し、地区社協活動を支援するための助成事業を行い、各地区社協で地域の実情に合った活動が推進された。
③地区社協支援事業	○地区社協活動支援事業の実施 ・地区社協の運営費助成と、地区社協活動を推進するため、地域福祉コーディネーターを設置し、円滑な事業運営を支援 牛久小学区地区社協、二小学区地区社協、おくの地区社協、神谷小学校区地区社協、向台小学校区地区社協 岡田小学校区地区社協、中根小学校区地区社協、ひたち野うしく小学校区地区社協 8 地区社協×20 万円	・地区社協運営費を助成することによって、役員会及び運営委員会など、各地区社協とも円滑な組織運営及び事業が推進された。 ・コーディネーターを設置し、地区社協と連携し、適切な支援が行えるよう体制の充実を図った。

実施事業名	実施内容	実績成果等
④認知症の人を支えるまちづくり事業	○認知症サポーター養成講座の実施 ・8小学校 718名	・小学校において、ボランティアの協力を得て講座を実施し、認知症への理解をとおして、支え合いの大切さを伝えることができた。
⑤生活支援体制整備事業	○第1層協議体の設置 ・地域生活支援協議会の開催 第1回 5/20 21名 第2回 3/3 23名 ・スキルアップ研修の開催 8/21 35名 市保健センター研修室 講演 こころのバリアフリーをひろげよう 講師 有賀 絵理氏 ○第2層協議体の設置運営 ・牛久第二小学校区 6/5 7名、10/2 7名、2/4 8名 スキルアップ研修 1/23 6名 ・中根小学校区 6/13 10名、9/27 10名、2/13 9名 スキルアップ研修 1/19 37名 ・牛久小学校区 6/6 10名、9/24 10名、2/18 9名 スキルアップ研修 10/10 43名 ・神谷小学校区 6/14 14名、10/11 13名、2/5 14名 スキルアップ研修 ①9/25 22名 ②11/2 46名 ③12/4 55名 ・ひたち野うしく小学校区 6/4 7名、9/17 8名、2/4 6名 スキルアップ研修 9/29 26名 ・岡田小学校区 6/7 11名、10/4 10名、1/31 10名 スキルアップ研修 ①9/25 32名 ②2/17 41名 ・向台小学校区 6/17 10名、9/30 7名、2/3 11名 スキルアップ研修 9/6 34名 ・おくの義務教育学校区 6/17 10名、9/30 10名、2/3 14名 スキルアップ研 9/6 10/10 11/6 12/6 29名	・第1層協議体では、団体間の情報交換と、ボランティアセンターやライドシェアの取り組みについて情報共有することができた。 ・第2層協議体では、フレイル予防や健康教室など、地域の福祉課題に応じたスキルアップ研修等を各地区社協と共催で開催することができた。
⑥福祉委員会	○福祉委員会	

実施事業名	実施内容	実績成果等
	5月22日（水）開催 ・社協会員の募集依頼について ○社協会員加入 ・一般会員 14,234 世帯 会費額 6,888,750 円 ・特別会員 44 世帯 会費額 59,000 円 ○赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい募金運動打ち合わせ会議 9月19日（木）開催 ・赤い羽根及び歳末たすけあい募金協力依頼について	・令和 5 年度比 1,151 世帯、207,500 円の減となった。
(2) 人や地域がつながる活動の支援		
①地域福祉活動助成事業 ②地区社協ボランティア移送サービス事業 ③ふれあいサロン活動の推進	○助成金交付審査会の開催 ・6/19 委員 5 名 ○申請団体 7 団体 ○助成決定団体 7 団体、16 事業 ○助成額 234,000 円 ○生きがいサポート協働事業の実施 ・二小学区地区社協 火・金曜日に外出サポート 利用者数：延べ 454 名 ・岡田小学校区地区社協 火・水・金曜日に外出サポート 利用者数：延べ 300 名 ・向台小学校区地区社協 月・木・金曜日に外出サポート 利用者数：延べ 193 名 ○ふれあいサロン設置状況 計 62 か所 ・地域サロン 56 か所 回数 2,364 回 延べ人数 28,838 人 ・子育てサロン 6 か所 回数 53 回 延べ人数 668 人 ○ふれあいサロン研修会 ・講演：お口を労り、おいしく食べ続けるための口腔ケア！ 7/20 36 名 牛久市中央生涯学習センター	・赤い羽根共同募金の配分金を活用し、障がい者支援や子育て支援等、地域福祉の向上につながるボランティア・市民活動の一助となった。 ・二小学区地区社協、岡田小学校区地区社協、向台小学校区地区社協が通院等の外出サポートを行い、その活動を支援した。 ・研修会は口腔ケアを学び、お口と全身の健康のつながりから、サロンでできる取り組みについて深めることができた。
(3) 住民参加による相互扶助活動の充実		
①有償在宅福祉サービス事業	○ふれあいサービス 高齢者世帯及び障害者世帯への掃除や食事づくり等の家事援助	・独居世帯のゴミ捨てや掃除等の相談が増加傾向にあった。

実施事業名	実施内容	実績成果等
②ファミリーサポートセンター事業	・協力会員登録者 119 名（実動 17 名） ・利用会員登録者 27 世帯（実利用 15 世帯） ・延べ利用回数 515 回 ・延べ利用時間 388.5 時間 ○ファミリーサポート 家族が子どもの面倒を見られない時の保育や送迎及び産前産後の家事援助	・有職の母親の保育負担軽減のため、夜間や休日の利用希望が増えている。
③重度身体障害者移送サービス事業	○重度身体障害者移送サービス 車イスの方等一人での歩行が困難な方が通院・社会参加等の際の移送支援 ・協力会員登録者 14 名（実動 8 名） ・利用会員登録者 53 名（実利用 15 名） ・延べ利用回数 548 回 ・延べ利用時間 275.5 時間	・主な活動は、通院及び当事者団体の定例会議等への移送である。サークル活動等社会参加のための送迎も増えている。

3. ボランティア・市民活動の活性化

活動支援体制を強化し、常に新たなニーズに対応できる、市民に役立つボランティア・市民活動センターの充実を図る

(1) 個々の活動支援と団体相互の連携強化

①育成支援活動	○各種講座の開催 ・はじめてボランティアオンライン講座 5・7・9・11・1・3月の第4木曜日～ 1週間 YouTube で公開 延べ 10 名 ・NPO 入門講座 6/28 15 名 ・高校生コミュニケーション講座 8/20 16 名 ・親子ふれあい体験 12/1 9 家族 24 名 ・地域別はじめてボランティア入門講座 7/22、23 5 名 ・災害ボランティアセンター運営訓練 9/11 65 名 ○福祉教育推進事業の強化及び福祉教育の活性化 ・福祉体験教室 車イス体験、アイマスク体験、 高齢者疑似体験 小学校 6 校 延べ 589 名	・県立医療大学木口先生を講師に迎え高校生を対象にした講座は、友だちづくりや面接などに役立つと好評を得た。
②ネットワーク活動	○ボランティア団体等登録状況 登録団体数 224 団体（4,569 名）、 個人 530 名、 計 5,099 名	・長年活動してきたボランティア団体が、高齢化により活動休止の申出がある一方で、新たな団体

実施事業名	実施内容	実績成果等
	○ボランティア・市民活動団体等との連携・協働活動の実施 ・ゆめまちネット牛久市ボランティア・市民活動ネットワークの事務局と協働連携 ・ボランティアリーダー研修会 9/21 71名 牛久市中央生涯学習センター 講演：自分の生活習慣にあった健康法を発見しよう ○施設等のボランティア担当者研修会 ・8/22 12施設 15名 事例発表と情報交換	の登録もあり、昨年度比2団体の増となった。 ・施設等ボランティア担当者研修会は、多様な人材が活躍する施設の実践をテーマに、市内の先駆的事例発表と県社協の取組みを聞き、情報交換を行うことで、今後の活動の参考になった。
(2) 新たなニーズにも対応できる機能の整備と充実		
①相談・あっせん活動 ②センター機能充実	○センター設備及び相談窓口の整備 ○活動に関する需給調整 ・ボランティア相談件数 150 件 ・紹介件数 60 件 ○運営委員会の開催 ・6/24、2/19 ・研修会 11/13 講演：地域で輝く高校生の育成 ～ 牛久栄進高校の取り組み ～ ○ボラセンニュース（市内回覧）発行 ・5/1、7/1、9/1、11/1、2/1 ○ホームページの運営	・福祉施設や行政区からボランティア活動の依頼が増え、施設やイベントへの紹介件数が増加した。 ・本年度新たに協働活動を進めた高校生のネットワークづくりのきっかけとなった牛久栄進高校の取り組みを奈良校長に講演いただき、高校生ボランティア育成の参考となった。
IV.役に立つ組織に再構築する。		
1. 職員教育の徹底 職員研修の充実を図り、住民の視点に立った地域福祉の推進役となる専門性を持った職員を育成する		
(1) 計画的な職員の育成		
①計画的な職員の育成	・各種専門研修への参加 ・内部研修の実施 ・計画的な職員採用 採用試験 11/23,1/25 の2回実施	・求人広告サイトを利用したの職員募集や、新卒学生、既卒者向けの職員採用試験を年2回実施し、令和7年4月採用となる7名の専任職員を採用した。
2. 安定した財源の確保 コスト意識を徹底し、効果的で効率的な自律した経営に努める		
(1) 積極的な財源の確保		
①自主事業の効率的運営及び拡充 ②会費の拡大	・介護保険事業、障害者支援事業、牛久ふれあい保育園、奥野さくらふれあい保育園、上町ふれあい保育園の拠点区分ごとに自主事業を運営 ・市内法人に電話連絡及び訪問により、社協法人会員への協力を依頼 259社 (2,618,000円)	・利用者様の参加意欲を促すような内容を取り入れた事業展開を図るとともに、常にコストを意識した事業運営に努めている。 ・令和5年度対比、16社減、235,000円の減となった。

実施事業名	実施内容	実績成果等
3. 計画の進行管理 この計画の進捗状況を確認し、進行を管理する。		
(1) 理事会による進行管理		
①理事会による進行管理	●理事会 ○第1回 5月30日(木) ・令和6年度一般会計収入支出補正予算(第1号)専決処分報告 ・令和5年度事業報告 ・令和5年度一般会計収入支出決算監査報告 ・職員給与規程改正 ・評議員候補者提案 ・第1回評議員会開催 ・評議員選任・解任委員選任 ○第2回 8月2日(金) ・常務理事選任 ・定款改正 ・常勤役員の報酬及び費用弁償規程改正 ・第2回評議員会書面決議 ○第3回 11月20日(水) ・令和6年度一般会計収入支出補正予算(第2号)専決処分報告 ・令和6年度一般会計収入支出補正予算(第3号)専決処分報告 ・第5次発展・強化計画見直し ○第4回 3月13日(木) ・職員の不祥事の内容及び処分 ・令和6年度一般会計収入支出補正予算(第4号)専決処分報告 ・令和6年度一般会計収入支出補正予算(第5号)専決処分報告 ・職員給与規程改正 ・定款改正 ・障害者基幹相談支援センター運営規程制定 ・事務局規程改正 ・経理規程改正 ・令和7年度事業計画 ・令和7年度一般会計収入支出予算 ・職員就業規則改正 ・パートタイム職員就業規程改正 ・臨時職員就業規程改正 ・職員の育児・介護休業等規則改正について	・岡見清常務理事兼事務局長の逝去に伴い、理事の川上秀知氏を常務理事に選任した。 ・新たに障害者基幹相談支援センター開設に伴い、運営規程の制定等を行った。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	・嘱託職員就業規程改正 ・地域包括支援センター運営規程改正 ・指定知的障害者デイサービス事業所運営規程改正 ・指定知的障害者デイサービス事業所日中一時支援事業運営規程改正 ・奥野さくらふれあい保育園園長（施設長）選任 ・役員等賠償責任保険契約締結 ・第3回評議員会の開催 ●評議員会 ○第1回 6月25日（火） ・令和6年度一般会計収入支出補正予算（第1号）専決処分報告 ・令和5年度事業報告 ・令和5年度一般会計収入支出決算監査報告 ○第2回 8月2日（金）※書面決議 ・定款改正 ・常勤役員の報酬及び費用弁償規程改正 ○第3回 3月27日（木） ・職員の不祥事の内容及び処分 ・令和6年度一般会計収入支出補正予算（第2号）専決処分報告 ・令和6年度一般会計収入支出補正予算（第3号）専決処分報告 ・令和6年度一般会計収入支出補正予算（第4号）専決処分報告 ・令和6年度一般会計収入支出補正予算（第5号）専決処分報告 ・定款改正 ・令和7年度事業計画 ・令和7年度一般会計収入支出予算 ●評議員選任解任委員会 ○第1回 5月30日（木） ・評議員の選任 13名	・牛久ふれあい保育園の宮本恭子園長（施設長）退職に伴い、曾谷由利子主任保育士を園長に選任した。 ・評議員構成団体の役員交代等に伴い、各団体等からの推薦書に基づく理事会の提案により、13名の評議員の選任を行った。
4. 適切な法人運営、事務局運営 地域住民とともに住みよいまちづくり実現を目指すための組織、運営体制の整備に努める		
(1) 事務局運営体制の整備		
①効率的な事務局運	○一般寄付	・各種生活消耗品に加えて、大人

実施事業名	実施内容	実績成果等
営	・現金 51 件 644,389 円 ・物品 28 件 洗剤・シャンプー等生活消耗品、大人用おむつ、車いす、シルバーカー等	用おむつや車いす等市内福祉施設等で活用できる物品の寄付をいただいた。
(2) 情報発信機能の充実		
①効果的なパブリシティの促進	・社協活動や福祉活動の情報を、社協広報紙(年4回)、パンフレットの配布(年1回)、地域かわら版(毎月)、ホームページ運営、SNS 活用(随時更新)、FM うしくうれしく放送により市民へ情報提供	・SNS による情報提供により、市民に最新の情報提供が行えている。 ・FM うしくうれしく放送で「社会福祉協議会だより」のコーナー(毎週1回)を設け、社協職員による事業紹介を行っている。